

「株式会社 姫路シティ FM21」

第49回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成24年9月29日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ セミナー室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 9名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	井上 悠	岩成 孝	大谷 昭仁
岸田 直美	楠田 孝蔵	湯之原 貴夫	宮本 節子
柳谷 郁子			

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

井上 重義 衣笠 愛之

5) 会社側出席者氏名

黒田 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画部 課長)

4. 議題

1) 事務局より挨拶

新任の委員説明

2) 資料説明

3) 試聴

「子供ラジオ教室」を10分程度試聴した。

4) 意見交換

副委員長 コーナーの営業に行った場合は電波料と制作費を提案するということか？

課長 制作費は目安である。取材や編集に時間がかかるものとそうでないもので変化する。

副委員長 子供の番組はいくらかかっているのか？

課長 内部でやっているのだから新たな制作費はかかっている。

副委員長 外注したらどのくらいかかるのか？

課長 一概には言えないが、1時間番組の録音と編集で2万円ぐらいである。

副委員長 子供はその場で上手くしゃべってもらおうとすると、取材が必要になるのではないのか？

課長 取材になると大変な時間がかかる。

副委員長 もう一つ質問がある。パーソナリティの確保について、どうやって探しているのか？

課長 プロダクションがある。ゲンキには開局時から付き合っているプロダクションがあるが、姫路に朝から人が出せない、土日は出せないといってくるので、新しいプロダクションを開拓して採用している。

副委員長 FMゲンキが直接オーディションを行って採用するという事はやっていないのか？

課長 毎年実施している。養成講座をやっていて、2月にオーディションをしている。ただ、朝のワイドをやるとなるとハードルが高くなる。家庭を持っているパーソナリティは担当できない。

副委員長 養成講座の募集があつて、そこから選ぶというのはおかしい。「パーソナリティになりませんか？」と出して、応募を受付けるほうがよい。若い人や男性だったら土日でも無料でやりたいはず。その方が確実ではないか？発想を逆転にすべき。訓練を受けてから、となると躊躇する人がいる。これだけ貧困問題が厳しくなってくると、仕事がないという人も多くなっている。仕事はありますよ、と。その為には研修が必要ですよというほうが、人は集まる。

営業活動について質問がある。しゃべる技術と編集する技術が問題。しゃべる方は、姫路に限らず近隣大学の落語研究会を紹介し、編集はFMゲ

ンキが行うというのはどうか？中高生の場合は放送部が狙い目である。放送部はきちんと訓練している。ただ高校紹介でお金は取れないと思うが、タダで話せる人を呼ぶことができる。話せるひとをピンポイントで呼ぶほうがよい。

営業活動に関しては、保険会社がわかりやすく説明をしたら好評だったという話であるが、どういうことか？

課長 夕方のゲストコーナーでの出演だった。具体的な貯蓄の話だったので問合せがあったのだと思う。

副委員長 ぜひ、高齢者暮らしの相談というようなことをやってほしい。自分自身が困ることが多い。電球の替え方、お墓の話、家の解体の話を聴きたいがやっていない。高齢者はラジオを聴いている。私よりも若い世代は親の介護をやっている世代である。もう一つ。介護施設やデイケアは競争している。デイケア同士の営業活動も厳しくなっているから、そういうところにスポンサーになりませんかといえば、結構うけるところがあるはず。ニーズはある。同時に、そのようなところは従業員も不足している。働いている人にどんな仕事ですか？どんな生きがいがあるか？ということを知る番組もほしい。結局は広報になる。

課長 暮らしの情報部という番組や生き生きガイドという介護の番組はやっているが、具体的な介護施設への営業は少ない。一時期介護施設にいったが、入所待ちであり話にならなかったが、デイケアは特に営業をしていない。

副委員長 デイケアやショートステイは、遠距離だと人が少なかったりしている。満床といっても入居者を選んでいる。お寺や教会の話も宗教の宣伝ではなく、あればリスナーは嬉しいのではないか？

委員長 宗教の話はNHKなどで朝からやっている。

副委員長 若い人も宗教を求めている。高齢者を介護している人も同様である。

委員長 宗教もいろいろあるから難しいのではないか？伝統宗教と新興宗教の扱いの問題など。

課長 知りたい内容を情報発信する分は必要かもしれないが、県域局は完全に営業として宗教番組をやっている。FMゲンキは第三セクターなので難しい。

副委員長 今では従来型の葬儀が減っている。ニーズは高い。葬儀の時だけお寺を頼んでいいのか？その後は疎んじてもいいのか？というところも気になる。お墓が要らないという人も増えている。考えてほしい。

課長 イオンでも葬儀をやっている。

委員長 姫路は地域ごとにしきたりが多く、こちらがそうおもっても言えないし言わないしということも多い。メディア側としてはややこしく取り上げにくいところではないか。しかし、国民全体の問題としてメディアからも色々な情報を提供する必要があるのではないか。葬儀業者はスポンサーになれないのか？

課長 そんなことはない。県域局でもある。FMゲンキでも株主企業などに提案しているが、結婚式は良いが葬儀は遠慮しているという話もある。

副委員長 会社の宣伝はありがたくない。必要な話だけをして、スポンサー名は最後だけでよい。リスナー主体の制作をするべき。絶対に誘導できる。

委員長 リスナーの意向をくみ上げる仕組みはあるのか？

課長 アンケートのハガキ、リスナーからのメールなどがある。それは共有している。

副委員長 ただ、アンケートをわざわざ書くというのは面倒である。どこかの自治会に聴きに行く方がよい。

課長 現場の話としては、公民館の取材などにいったときに公民館長などから意見を聞くことがある。

委員 高齢者もリフォームなどの助成金の話などを知らない人も多いので教えてあげてほしい。

課長 行政も広報ひめじには書いているというが、見ない人もいる。

委員 災害時の要援護者リストの申請を回覧で出しても100軒で1軒しか返って来ない。集会などで声をかけると、返ってくる。読んでというのは理解しない。

委員 前々から言いたかったのだが遠慮していた。成年後見制度も実施されて

何年もたつが、運用の仕方や利用の仕方がわからない。その上で親族が後見人になると身内だからといって持っているお金を使ってしまう。それは犯罪である。そのような知識を伝えるという時間を作ってほしい。

課長 FMゲンキでは「暮らし安全ガイド」として、月曜日は司法書士、火曜日は弁護士に協力してもらって、成年後見制度についての説明もされている。コーナーが短いので少し触れて、詳しくはご連絡をという形ではあるが、取り上げている。

副委員長 作り方が問題である。NHKはつくりが上手い。子供が電話をかけてきて質問を行い、専門の先生が答えている。専門家に丸投げをしてしまうと、聞きたいことが聞けない。

委員 シニア世代にヒアリングをしても聞いてもらえないと意味がない。アンケートのハガキに朝の番組でどのようなものがよいか？という質問があるが、それに「法律番組」という文言を足せばよいのではないか？FMゲンキのアンケートの回答ではシニア世代が増えてきているという印象を受ける。私のイメージでは聴くだけでイメージできると思えない。ながらで聞いていて、理解できるのだろうか。

委員 関心があることだったらわかる。

副委員長 聴き手が電話で聞くということが重要。

委員 どんな質問が来るのかわからないのに、幅広い分野の先生を確保するのは大変ではないか？

副委員長 分野を絞ればよい。

委員 新聞では、人生相談もある。周囲の意見を聞くと、その人生相談のためにとっているという声も多い。そこに自分と重ね合わせているようだ。

副委員長 聞きたいことがあれば、聞く。

委員長 一局で全部対応するというのは難しいのではないか。最初は紹介するという程度で始めて、リスナーの要望が集約できればスポンサーをつけて立ち上げるという方法が取れないかなと思う。NHKがやっているような事をやるのは難しい。

副委員長 絞ればよい。もう一つ。今関心が高いものでエネルギー問題がある。節

電の方法もわからない。関西電力がスポンサーになればよいのではないか？

課長 今回もでんき予報の放送依頼が来た。FMゲンキとしては出演のリクエストもしたが遠慮された。本来であれば、姫路支店は地域の情報を担当者から話していただくのがよい。

副委員長 それは会社側の論理。リスナーはどうやったら節電ができるかという情報の方が大事。エネルギー系は暮らしの中にいろいろある。

課長 直接売の話よりも知りたい情報を聞きたいということか。

委員長 スポンサーの確保は難しいか？

課長 難しいです。消費税があがるともたないという声もある。ラジオは昔はイメージで売ることができたが、今は出すのであればどれだけの売上・利益になるのか？という話になる。わからないものに出すぐらいなら、チラシをいれるとなる。

委員長 金融機関は？

課長 FMゲンキでは大きなスポンサーである。地元の信用金庫はすべて参加していただいている。都銀はまったく駄目。

副委員長 JAは？

課長 定番のスポンサーである。

副委員長 出したい側が流したい事をしゃべっているので、聴きたくないとなる。売る方に工夫が無い。局側から提案すべき。

委員長 勉強したほうがいい。

副委員長 行政の広報も実に聞きにくい。行政マンが淡々としゃべっているだけである。

課長 消防局もわかりやすい出演が増えている。今は各消防署からの電話中継もあり良くなっている。

副委員長 聴き手が知りたい事を話してくださいと求めていくべきだ。

- 委員長 リスナー側にたった放送をやりなさいということ。付け加えると年金の問題もある。私の生活はどうなるのか・・・。
- 副委員長 とても複雑である。奨学金の返還問題もしかり。リスナーの視点に立った質問に回答する必要がある。公民館や自治会で集まっているところで話を聞けばいくらでも聞かせてくれるはずだ。NPOのプロジェクトに入れてもらえればよい。
- 委員長 話は変わるが、FMゲンキのパーソナリティの女性が取材に来られた。パーソナリティが独自に取材をするというのは良いことである。その中で要望をきくというのも良いのではないか。
- 委員 話の内容として、高齢者をターゲットにするということがあったが、学生のなかでも高齢者を対象にした学生団体がある。老人ホームに行くという団体である。そのようなところにも取材にいきたい。
- 委員長 若い人でも高齢者に興味があるのか？
- 委員 興味というよりもたすけてもらわないといけない。高齢者にはかわいい高齢者になるようにと。
- 副委員長 若い世代が現場に行っているというところを取材してほしい。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成24年10月15日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ (<http://fmgenki.jp>)

 自社放送内

以上